



長井龍也  
広島維新の会



子育て家庭とのつながりづくり

問 地元から離れた土地での育児やコロナ禍により地域とのつながりが断絶した環境での育児は、閉鎖的になりやすく、子育て世帯の孤立が問題となつている。孤立防止に向けた取り組みと今後の展望はどうか。

答 本市では、保健師が機会を捉えて妊娠・出産に関する不安や悩みを聞き、助言や情報提供を行ったり、乳幼児全戸訪問事業を実施したりしているほか、親子が身近な場所でも相談・交流できるよう常設オープンスペースを設置するなどしている。引き続き、社会全体で子育て家庭を支える取り組みを推進していきたい。



市債の今後は？

問 市債残高の抑制を目標に掲げているが、本市の将来負担比率は164.8%で政令市中最下位、市民1人当たりの市債残高は約94万円で18位である。この結果をどのように受け止め、今後どうしていきたいと考えているのか。

答 財政健全化法に基づく令和4年度将来負担比率の値は、政令市中最も高いが、同法が公布された平成19年度の値からは改善している。また、同法が規定する財政の早期健全化が必要となる水準を大きく下回っていることから、財政運営に支障を来す状況にはない。引き続き事業の選択と集中を一層徹底しながら、市債残高の抑制に努めたい。



亀井一夫  
自民党・至誠会



通学路の安全対策

問 登下校中の子どもたちの交通事故件数が増加傾向にある中、運転手への安全意識啓発のため、また、子どもの安全を守るため、学校付近の横断歩道をカラー化してはどうかと考えるが、本市の見解は。

答 現在、令和4年度に横断歩道のカラー化が実施された箇所について、該当校にその効果を報告するよう依頼している。今後、各学校からの効果に関する報告も踏まえながら、通学路における安全対策が効果的なものとなるよう、関係機関と連携して取り組んでいきたい。



カラー舗装した横断歩道

広島高速4号線の利用料金

問 当初、2040年には償還期限が来て無料になるとのことだったが、料金プール制に移行後、その期限が延長されたと聞いた。そうであるならば、償還の見込みが立った段階で値下げすべき。料金はどのように決まり、いつ償還が終わるのか。

答 4号線は、当初、単体で国の認可を受け、料金と徴収満了日を決めていた。その後、1号線から4号線までが交通上密接に関連すると認められたことから、全体を一つの償還対象とする料金プール制に移行した。この際、料金は据え置かれたが、徴収満了日は2043年となった。今後、5号線を供用する際には、改めて徴収満了日を整理し、国の認可を受けることとなる。



平岡優一  
自民党・市民クラブ



被爆樹木の剪定枝の活用を

問 現在、被爆樹木を剪定した場、剪定された枝はすべて廃棄されているが、被爆80周年記念事業として、この剪定枝をキーホルダーやネクタイピンなどに加工し、活用するといった事業を検討してはどうか。

答 被爆樹木の剪定枝を活用した商品化の取り組みは、平和意識の醸成を図ることに資する有意義なものと考えられるため、まずは、令和5年度から剪定枝の収集を開始し、令和7年度から剪定枝を活用する団体や企業等の募集を行い、被爆80周年記念事業の一つとして、本格的に実施したいと考えている。

広島発の平和ミュージカルを

問 ホノルル市の子どもたちによる平和ミュージカル「PEACE ON YOUR WINGS」を被爆80周年記念事業として招聘してはどうか。

答 広島平和ミュージカルは、令和5年9月に、本市で開催されたもので、佐々木禎子氏の生涯を描いた物語をホノルル市の子どもたちが演じたミュージカルである。本公演は、本市が推進する「平和文化の振興」に大きく寄与する取り組みであるため、被爆80周年記念事業として実施したいと考えており、先般、市長がミュージカル関係者と協議を行ったところである。



原爆の子の像



山本昌宏  
市民連合・市民の声



給食に医食同源米の導入を！

問 医食同源米という健康成分を多く残した米を子どもたちに提供しようという全国的な動きがある。本市でも、精白米を医食同源米に置き換え、子どもたちの学校給食で使用する必要があると考えるが、どうか。

答 本市では、年に数回、医食同源米の一つである発芽玄米を白米に混ぜて提供している。その他の医食同源米の使用や、発芽玄米の使用回数を増やすことは、価格が高くなるという課題や、医食同源米の種類によっては異物が発見しにくいことを理由に使用を中止した自治体もあることから、今後、学校給食の米を供給している県学校給食会と連携し、研究したい。



若者の平和発信の拠点に！

問 国際的なアート・プロジェクト「キッズゲルニカ」の展示を新サッカースタジアムで行うなど、スタジアムが次世代を担う多くの若者の平和発信の拠点となるよう活用していく必要があると考えるが、どうか。

答 サッカースタジアムは、平和や広島のスポーツの歴史などについて世界中に発信できる施設を目指している。議員提案の展示など平和関連の取り組みをスタジアムで実施することは、平和発信の拠点の実現に向けて意義があるものと考えられる。今後、こうした取り組みをスタジアムで行えるよう、同施設の指定管理者に協力していきたい。



碓氷芳雄  
公明党



大切な命を守る伝承館！

問 令和6年に「平成26年8月豪雨」から10年を迎える。災害から大切な命を守るためには、災害を忘れることなく、防災や減災に対する意識や知識を高め、いくことが必要であり、「豪雨災害伝承館」の役割がますます重要になると思うが、本市の見解は。

答 災害対策基本法には、過去の災害から得られた教訓や知識の語り継ぎを熱心に行っているが、災害の記憶を風化させないためにも、語り継ぐ人材を育て、永くその役割を果たしていけるようにしたい。

看護学校・准看護学校への支援を！

問 長年、本市域の地域医療の発展に貢献してきた「医師会立看護学校・准看護学校」を本市はどう認識しているのか。また、入学者数が減少する中、看護職員の安定的な養成に向け、どのように取り組むのか。

答 市医師会看護専門学校や安佐准看護学院は、長年にわたる多数の看護職員を養成し、その卒業生の多くが、市内の医療機関で従事するなど、本市の医療提供体制の確保を図る上で、大きな役割を果たしてきたと認識している。本市としては、看護職員の安定的な養成・確保に向け、市域医師会と協議しながら必要な対応を行う。



清水貞子  
日本共産党



学校給食の在り方

問 自校調理方式を採用している小学校17校が、安佐市民病院の跡地に建設される可部地区学校給食センターの稼働に合わせて給食センター方式に移行する予定である。子どもや保護者に説明もないうまま、自校調理方式をセンター方式に移行するのは認められない。移行するのであれば、子どもや保護者の声を聞くべきではないか。また、センター方式を全市・全域に広げるべきではないと考えるがどうか。

答 本市では、平成30年度に児童生徒や保護者等を対象に、学校給食に何を求め、何を期待しているかといったニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、その結果も踏まえて、令和3年度に「学校給食の充実に向けた給食提供体制の見直し方針」を策定した。学校給食の提供手法については、経費面や衛生管理面など総合的な観点から設置者において責任を持つて判断すべきと考えており、今回の変更については改めて保護者に説明することは考えていない。また、将来目指すべき給食提供体制として、自校調理方式と給食センター方式について経費面、衛生管理面、給食内容等の観点から比較検討を行った結果、センター方式を採用することが望ましいと判断し、見直し方針を策定したものであり、今後も引き続き見直し方針に基づき取り組みを進めていく。



新しい「スポーツ王国広島」とは

問 広島は昔からスポーツ王国と呼ばれているが、松井市長が令和5年第3回定例会での所信表明の中で掲げた、新しい「スポーツ王国広島」とは何を目指すのか。また、どのように取り組んでいくのか。

答 新しい「スポーツ王国広島」は、全ての市民が主役となり、それぞれの思いや置かれた環境に沿ってスポーツに関わることができるよう状態をイメージして掲げている。実現に向けて、日常的にスポーツに親しむ機会の充実や、競技力の向上を目的としたスポーツ活動・環境を支える組織や体制の充実、さらには国際的・全国的な大会の誘致などによる、スポーツを通じたまちの活力創出に取り組んでいる。

ツキノワグマ出没への対応は

問 西中国山地におけるツキノワグマの生息頭数は10年前に比べてどうか。人身被害等を未然に防ぐための捕獲対応については、イノシシやシカの対応と異なるのか。

答 環境省が令和2年度に実施した調査によると、生息頭数は、約1.5倍に増加している。イノシシやシカの捕獲許可権限は本市が有しているのに対し、ツキノワグマは県が有しているため、捕獲を行う場合は、県の許可を得て、市有害鳥獣駆除班が捕獲を行う。



※紙面の都合上、1人2問以内で掲載しています。 ※質問内容は、発言議員本人の提出によるものです。